

計算機型UHF会話用発信機



1201218

UCL-203はソーラー電池を使用する計算機の内部にUHF発信機を組み込んだ製品です。受信機としてUZ-10・UZ-10HX・UZ-100Mなどが適します。

使い方

購入時には、既に電池がセットされていますので、発信機のスイッチを入れさえすればOKです。スイッチは上側面にある小さな穴です。

ここに付属ブッシュを差し込み軽く押しと「切」→「入」→「切」と切り替わっていきます。押しした時の手応えが、奥で停まる感じが「オン(発信)」、浅くなるのが「オフ(停止)」です。

慣れれば、この感触での判断でもOKですが、受信機で発信しているかどうかを確認するのが最も賢明です。

きわめて高感度なマイクを使用していますので、特に置場所に注意する必要はありません。ごく普通に机の上であれば、部屋内の会話を残らず聴取することができます。

付属ブッシュをなくした場合、楊枝、ゼムクリップを伸ばしたものが代わりに使えます。先端がとがっ

たもの、縫い針などは使わないでください。

新品を使った場合で、電池寿命は連続約8時間です。

電池交換は以下の手順で行います。

小さめのプラスドライバー、あるいは大きめの精密プラスドライバーで背面にある電池スペースふたをとめているネジをゆるめ、ふたを外します。

内部の電池スペースに

リチウムボタン電池CR2032が埋め込まれています。楊枝などを脇の切り欠きに入れて電池を起こして外します。しっかり埋め込まれていますので、指のみで外すことは難しいと思われます。

新しい電池を、写真のように文字の刻印のあるプラス側を上にしてセットします。あとはふたを元通りにすれば終了です。

CR2032はゲーム機などでも使われる電池ですので、コンビニには必ず置いてあります。1個約300円程度です。

このボタン電池は本来、計算機の一時的なデータ保持用に使われるものです。「M+」「M-」キーを使う際に、ソーラー電池がダウンし、メモリーが消去されることを防ぐためのものと思われます。ソーラー電池がじゅうぶんに働く状態ではもともと出番がありません。

UCL-203ではこのCR2032を計算機の回路から外し、発信機だけの電源として使用しています。

CR2032が消耗し切っても、計算機の動作には事実上影響がないため、使用者に不審がられることはありません。



UCL-203のスペック

●外寸/176×110×18mm ●重量/157g(ボタン電池含む) ●電源・電池寿命/リチウムボタン電池CR2032(3V)×1個・8時間(これ以上発信は可能だが距離が短くなる) ●送信チャネル/UHF帯A・B・C ●マイク有効範囲/周囲半径15m程度